

今週のメニュー

■トピックス

◇PVC Design Award 2013 展示・デザイナー交流会
ー東京・名古屋・大阪・福岡会場に660名の方が集うー

PVC Design Award 事務局

■随想

◇PVCな人生（第1回）

株式会社タイポー 代表取締役社長 平野 二十四

■編集後記

■トピックス

◇PVC Design Award 2013 展示・デザイナー交流会
ー東京・名古屋・大阪・福岡会場に660名の方が集うー

PVC Design Award 事務局

今回で3回目となる「PVC Design Award 2013」の発表・表彰式に続いて、全国各地で受賞作品・製品を展示し、デザイナーと塩ビ関連団体との交流を行いました。

初めに10月30日から3日間、恒例となっている東京六本木のAXISビル地下1階シンポジアで展示会を開催しました。展示台のデザインは東京芸大美術学部建築科3回生増渚さんにお願いし、透明な硬質塩ビ板と白い発泡塩ビ板の組み合わせの半円状テーブルを準備しました。カラフルな授賞作品がシンプルな色調のテーブルに輝いて、全体に見やすく展示されました。来場者は約350名にのぼり、同じ時期に東京デザイナーズウィーク2013が開催されていたこともあり、半数以上がデザイン関係の方で、中には北欧のデザイナーやバイヤーも来場されて、大賞のエアキンに注目されていました。また、受賞された方の家族や友達も来られて、作品の前で記念写真を撮られたり、終日賑やかに会場を埋めて頂きました。メディアの方も取材に来訪され、写真家が撮影された記事が日経デザイン誌で紹介されています。

翌週の11月5日には、関西ビニール卸協同組合と西日本プラスチック製品加工協同組合の事務所に近い東大阪市のメルカート会館で主催団体中心の展示会を開催し、約100名の来場者に熱心に作品を見て頂きました。



シンポジア(Axisビル)での展示



大阪での展示会



大阪での交流会

名古屋地区では、11月8日に、日本ビニール商業連合会の勝山会長のお世話で、名古屋駅前の三協化成産業(株)1階で展示会を開催しました。ここでも約120名の方が参加され、多くの製品応募を頂いた森松(株)の方々が揃って記念写真を撮られていました。

更に、11月26日には、福岡市の九州大学大橋サテライトで、九州地区のデザイナーと地元の塩ビ業界が集り、授賞作品の展示紹介と交流会を開催しました。交流会の後半には九州大学のデザイン関係の学生が多数押し寄せて興味深く作品を見て行かれたことが印象に残りました。ここでの来場者は約40名を含めて、今回の展示・交流会での来場者総計は660名になりました。

各地での展示会を通じて多くの方々と触れ合い、あらためて塩ビ素材の可能性が広がったと感じています。この「PVC Design Award」が継続して開催され、日本のものづくり活動のきっかけになることを、関係者一堂願っています。

翌日11月6日には、大阪駅前に今年オープンしたグランフロント大阪のカンファレンスルームで、JIDA関西ブロックとの共催によるデザイナーとの交流を開催し、ザック国際特許事務所の崎山博教弁理士の講演も交えて、授賞作品の紹介を行いました。ここでも約50名の方が参加されました。



上：名古屋会場 / 下：福岡会場

■ 随想

◇PVCな人生（第1回）

株式会社タイボ一 代表取締役社長 平野 二十四

<Prologue プロローグ>

食べるために働く・・・家にあまり居ない・・・そんなに器用じゃない・・・自分目線の持論・・・大正15年生まれの父。

チョットお嬢様だった？ 世間知らずの？ 父の言動の矛盾（男の勝手）に納得がいかない・・・でも経理として父を支え、父の人付き合いに気を配るやっぱり大正15年生まれの母。

昭和35年そんな夫婦の間に生まれてきた私。

純粹だった子供のころのことがだんだん思い出せなくなり、後付の大義をさも〇〇のごとく考える近年ですが、VEC様からいただいたこの機会に、塩ビとリサイクル、TAIBOとわが人生を回顧してみます。

<What' s TAIBO>

株式会社タイボーは、日本繊維を退職した、父 ^{ひらののぼる}平野昇が1967年に大阪で新たに紡績会社を立ち上げたのが始まりである。

社名は大阪の“大”ダイ、紡績の“紡”ポーでタイボーとしたらしい。

ただ、新しい糸を創った時や、リサイクル事業を始めた時には「大望」とか「待望」なんて言っていたが、経営が苦しくなると、耐えて忍ぶ「耐乏」になっていた。

日本繊維にいた平野昇の専門の知識とアイディアは、東レからの依頼でテトロンの紡績糸を開発し台北に事務所をつくった。また当時日本で3社独占事業だった苧麻の屑を集めて製綿加工して販売する(我社のリサイクルのルーツ?) 一方、その苧麻にレーヨンを経ませた混紡糸で特殊な燃糸を開発、当時の蝶理と輸出?。またテトロンをシルクで包んだ紡績糸は三井物産と製造、輸出する、など順調な滑り出しを見せた。

その時だった。1970年代、ニクソンショックにオイルショック、金本位制から変動相場制へ。1ドル360円だったのが見る見る円高となって行く。

時の通産大臣「田中角栄」が紡績を廃業するのであればどんな状態の設備であっても国で買い上げるとの施策を打った際、借金があった父は渡りに船と持っていた設備をすべて手放して綺麗サッパリ紡績に見切りをつけてしまったのだった。

そうして1971年当時40代とまだ若かった父は、いらなくなった繊維を細かく砕いて建材の原料にする仕事に目をつけリサイクル事業へと舵を切ったのであった。



創業者 平野 昇の若い頃です。

<分離技術によるリサイクル>

繊維屑を原料としたため、繊維の廃棄物を探していた時に今も活躍している分離技術に出会ったのだ。ビニールレザーを砕いて分離する。水も薬も使わない。細かく砕いて風で飛ばす。しかしただ飛ばすだけではない。高速で回る針のついたドラムが繊維とPVCを引きはがしているのである。

当時日本はPVCの需要真っ盛り。PVCレザーは自動車の内装になくはない素材であった。毎日毎日裁断された後のレザー屑が大量に排出されてくる。しかしこのビニールレザーはビニールの裏に布がついている。この布が無ければ軟質のビニール材量として使えるのに。

またまた相手は車であるが、エンジンの音が車内に入るのを防ぐために黒く厚みのあるPVCのシートを使っていた。加工性が良く重いことで遮音性が高くリサイクルできて安いためである。軟質のPVCスクラップはこの遮音シートの原料にうってつけだったのだ。分離された塩ビレザーのPVCはこの車の部品に瞬く間に利用される様になっていった。



愛知県扶桑町で始めてしばらくした頃のPVCレザーの粉碎分離設備と作業風景

おりしも時代は高度経済成長を続けており、ものが大量につくられる裏側で大量の産業廃棄物も造られていた。人里離れたところに建てられる巨大な工場に近い谷筋はこの産業廃棄物に1年で埋め尽くされていくほどであった。この埋立地の下に汚水流出を防ぐために敷くシート、これまたPVCレザーをリサイクルした軟質のPVCシートであった。廃棄物を減らすため、もったいないから有効利用するために行ったりリサイクルであるが、ここにまた多くの需要を見出した。

PVCレザーのPVCを有効利用するために、昔は畑仕事の合間にアルバイトのお母さんが手で裏の布を剥がしていたそうだ。当時はPVCレザーの製造技術が未熟で、表面のビニールは厚く、裏の布も厚く、接着も弱かったため手で剥がせたという。塩ビは厚みがあるため(重量がのる)良い値段で売れ、布は裏庭で燃やせば十分な収入になっていたようだ。後に、プールに硫酸を入れ希硫酸で裏の布(当時はみな綿だった)を焼き、残った塩ビを水洗いする“酸焼き”と言う手法の再生方法もあった。

人件費の高騰や綿を勝手に焼却することが出来なくなったこと、加えて排水の規制が厳しくなって来たため、このような手法のリサイクルは無くなっていった。

また、ビニールレザーでも塩ビを薄くして、裏は化学繊維、接着強度も上がるなど、時代とともに品質改善、コスト改善が進められ仕様が大きく変わっていった。

TAIBOの粉碎分離技術は機械式で水も薬品も使わず、綿であっても、化学繊維であっても分離できることから生き残ることが出来たのである。また、分離した繊維側の用途を持っていたのも大きな勝因であった。

以降、粉碎分離の事業は、設備も複雑化し、材料投入から加工、回収までの工程が長くなるなど、品種の切り替えを少なくできることから、ターポリン地、ガーデンホース、送水ホース、床材、タイルカーペット、壁紙などの軟質の塩化ビニールと繊維で構成される素材に特化していくことになる。

(つづく)

■ 編集後記

先日の深夜に、ブラジルワールドカップ一次予選リーグの組合せ抽選会が行われ、日本の対戦相手が決まり、ワールドカップムードが高まって来ています。日本では、この大会がオリンピック以上の商業規模であるということは、あまり知られていないのですが、欧州や南米での注目度は想像を絶するもので、自国の試合の視聴率は90%を超え、大会の平均視聴率も60%を超えと言われています。40年以上この大会を観てきた小生も、この夏は睡眠不足に悩まされそうです。(KT)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)、[メールマガジン登録](#)、[メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp

